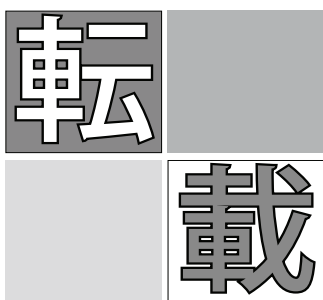




格闘技と私

いちょうの木クリニック 木藤 秀章

(吉南医師会報 平成 29 年 7 月号より)

私が小学生の時、最も好きなテレビ番組は新日本プロレスの中継でした。当時、ゴールデンタイムでの放映で、視聴率も 20%を超えていました。当時は新日本プロレスと全日本プロレスが 2 大団体で、新日本プロレスのトップは「アントニオ猪木」、全日本プロレスは「ジャイアント馬場」。私は「新日本派」でした。中でも、長州力さんの大ファンで、小学校ではプロレスごっこがはやっていましたが、私はもちろん「長州力役」長州さんの魅力は、いかなる相手でも全力でぶつかるところでした。長州さんは旧徳山市の出身で、ミュンヘンオリンピックのレスリング代表でした。新日本プロレスへはエリートとして入門しましたが、先に入門した藤波辰巳選手が優遇されること多く、これに反発したのが皆様ご存じ「かませ犬」発言です。(詳しくはノンフィクション作家、田崎健太さんの『真説 長州力』をご覧ください。)その後は、とにかく長州さんのとりこでした。

時は経ち、あるご縁でクリニックの CM にも出演して頂けることに。当時のイメージとは異なり本当に謙虚で紳士的な方です。ただ、これまで経験したことのない「オーラ」があり、何度かお会いしておりますが、未だに常に緊張しております・・・。(ちなみに長州さんと宮古島に旅行するプランがありますが、今から緊張しております。)

長州さんとの出会いがきっかけで多くのプロレスラーの方と知り合うことができました。

中でも仲良くして頂いているのが、元横綱、曙太郎さん。曙さんは本当に優しい方です。

2 年前に開院 5 周年に地域の方々への感謝の気持ちを込めて、もちまきをしようとしたのがきっかけで、もちまきの前にプロレスの試合をするよ

うになりました。

今年の 5 月に曙さんとタッグを組んでボブ・サップさんと試合をする予定でしたが、体調不良にて実現できませんでした。4 月にお会いした時にはサップ戦に向け、いろいろと作戦を練っていましたが・・・。次回は曙さんとタッグを組んで、サップさんと試合したいと考えております。

さて、私の格闘技歴ですが、高校生まではプロレスごっこのみ。大学に入り、大山総裁の極真空手に入門しました。(山口道場に通っていました。当時の指導者は現在、山口市内で「山口有永道場」の師範をされている、有永浩太郎先生でした。)強さに憧れ、入門しましたが、本気でパンチ、キックありの極真空手は痛いし、怖いし・・・。というわけで医師になってからはマラソンの道へ。

その後、超ラッキーなことに、長州さんとの出会いがきっかけでプロレスのリングに上がる機会ができました。これまで 3 試合 (5 周年、6 周年、7 周年)を行いました。1 戦目は西口プロレスの「見た目が邦彦」選手。2 戦目は曙さんとタッグを組んで、菊タロー選手、藤田ミノル選手と。3 戦目は今年の 5 月に藤原喜明選手、藤田ミノル選手とタッグを組んで、ボブ・サップ選手、菊タロー選手、ブラック・タイガー (NOSAWA 論外) 選手と。試合はいずれも勝利しました。よく聞かれるのが、「本気？」ということ。さすがに僕以外は皆さん、プロレスラーなので手加減はあると思いますが、基本的には「ガチ」です。蹴りやエルボーなどは本当に効きます。(翌日はアザだらけ・・・)そのため、柔道道場で受け身の練習やウエイト・トレーニングは充分に行って試合に臨んでいます。

試合を見に来ていただいた方に喜んでもらうこ

とはもちろんですが、私自身が心から楽しんでおります。今年は約 2,000 人の方が来られましたが、このような状況でプロレスができる喜びは計り知れません。本当に最高です。地域の方に喜んで頂き、自分自身も最高の経験ができる、こんな幸せな時はないと思います。

現在、次戦に向けてトレーニングを開始しております。今年は、110Kg の菊タロー選手を「ボ

ディースラム」、「ブレーン・バスター」で投げました。次回は 200cm、145Kg のボブ・サップ選手を投げたいと本気で考えております。これから 1 年、次戦に向けて全力で頑張りたいと思います。もしお時間がありましたら、見に来ていただけたらと思います。恐らく、予想よりも楽しいですよ！



7 周年イベント



6 周年イベント



○推薦者のコメント○

私の幼い頃のヒーローはタイガーマスクでした。デパートの屋上であったタイガーマスクショーを見に行き、興奮したのか、帰宅してから風呂敷をマント代わりにし遊んで、はずみで襖に穴を開け怒られたのをよく覚えています。最近ではプロレス中継も少なくなりさみしい限りですが、木藤先生の記事を拝見して、ボブ・サップ選手との試合を見に行きたくなりました。木藤先生、頑張れ！

〔広報委員 津永 長門〕